

Ⅲ 東京湾赤潮・青潮調査

東京湾の赤潮・青潮の発生状況については、公共用水域水質測定計画に基づく調査及び環境研究センターによる東京湾水質調査による観測から把握しており、その結果は以下のとおりである。

1 赤潮について

赤潮の判定は表1で示される「赤潮の目安」を参考に判定しており、最近の赤潮の発生状況は表2-1～表2-2のとおりである。

表1 千葉県における赤潮判定の目安

色 相	オリーブ系～ブラウン系
透 明 度	1.5m以下
クロロフィルa	50 μ g/L以上
溶存酸素飽和度	150%以上
pH	8.5以上

表2-1 令和2年度月別赤潮発生回数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
発生回数	0	2	1	2	3	1	1	0	0	0	0	0	10
調査回数	2	3	4	5	3	4	5	4	4	4	4	4	46
発生割合(%)	0	67	25	40	100	25	20	0	0	0	0	0	22

表2-2 過去5年間の赤潮発生状況

年度	H28	H29	H30	R1	R2
発生回数	12	14	13	13	10
調査回数	47	57	51	47	46
発生割合(%)	26	25	25	28	22

2 青潮について

青潮発生時には現場調査を行い、発生範囲等を確認している。

令和2年度の青潮発生状況は表3-1、過去5年間の発生状況は表3-2のとおりである。

表3-1 令和2年度青潮発生状況

発生時期	発生水域（最大時）	漁業への被害等
9月2日～9月3日	船橋港内、茜浜沿岸	なし

表3-2 過去5年間の青潮発生状況

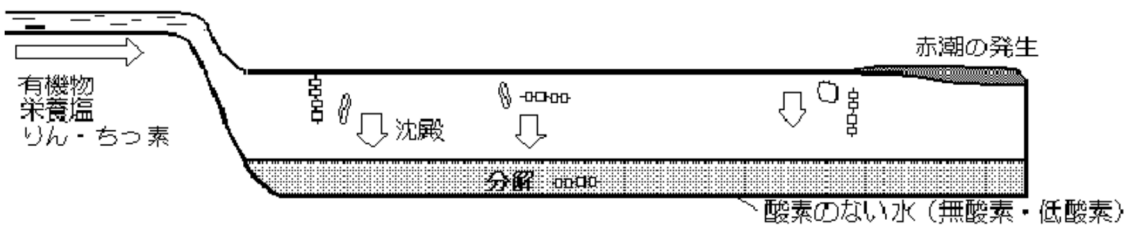
年 度	H28	H29	H30	R1	R2	5年間平均
回 数	2	8	4	2	1	3.4回
延べ日数	5	33	18	8	2	13.2日

「青潮」発生のおくみ

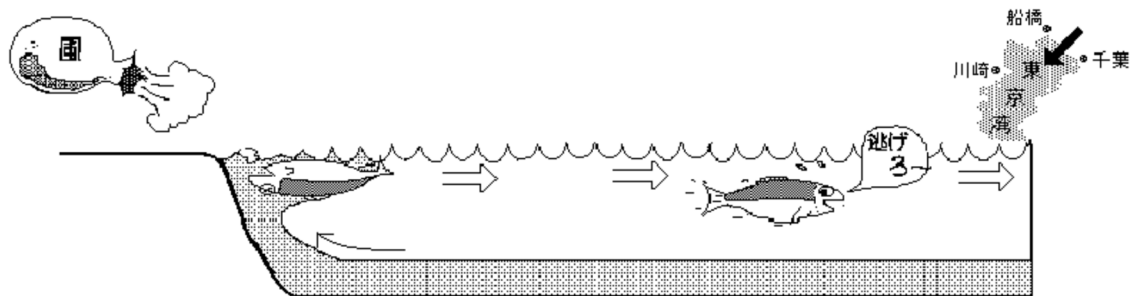
青潮とは、海面が乳青色または乳白色に変化した現象のことをいいます。青潮になると、カレイ、スズキなどの魚類が酸素を求めて水面近くに上がってきたり、ひどくなると大量に死んだりします。

青潮の起こりかた

I 家庭や工場から排出される有機物や、東京湾で生産される有機物（植物プランクトン）が底層に沈んで、そこで有機物を分解する細菌によって分解される。このときに酸素を消費し、底層水中の酸素がなくなる。水温が高くなると、海水は成層をつくり混合しにくくなるので、大気からの酸素の供給がなく、ますます酸素がなくなる。



II 北東の風が吹くと、表層の水が沖に流れ出る。（離岸流）そして、底層にあった酸素の少ない水が湧昇してくる。



III 海水中にたくさん含まれている硫酸イオンは、酸素のない水中で、硫酸還元菌により還元されて硫化物イオンができる。硫化物イオンが湧昇により、大気中の酸素と反応してイオウができる。イオウや多硫化物イオンが光を散乱させるために、海面の色が乳青色や乳白色に見える。

